

令和6年度 一宮小学校 総括評価表Ⅲ(健やかな身体の育成)

自 己 評 価			学校関係者評価	次年度への課題と												
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	学校関係者の意見	今後の改善方策												
早寝・早起きの習慣や運動習慣・基礎体力が身に付いていない児童がいる。	Ⅲ) 健やかな体の育成 ① 運動習慣の定着や学校体育を充実し、体力や運動能力の向上に努める。 ② 早寝・早起き・朝ごはんの習慣の定着を図る。 ③ 保護者や地域との連携を大切にし、食育や健康に関する学習を充実させる。	<table border="1"> <tr> <th>評価指標</th> <th>評価指標による達成度</th> <th>総合評価</th> </tr> <tr> <td> ①-1 児童・保護者アンケート「しっかり運動している」の達成率85%以上 ①-2 高学年の体操・水泳・陸上等の大会や業間かけ足等の練習日数を80日以上行う。高学年の体操・水泳・陸上等の大会への練習参加率50%以上 ①-3 体力テストによる体力総合評価がC以上の割合が70%以上 ----- ②-1 児童・保護者・アンケートによる「早寝・早起き」の達成率70%以上 「朝ごはん」の達成率85%以上 ②-2 長期休業日前の生活習慣チェックでの目標達成率70%以上 ----- ③-1 食育・健康に関する学習を学期に1回は行う。 ③-2 むし歯(う歯)の者の割合が県平均以下(令和6年度38.8%) </td> <td> ①-1 児童90%、保護者79%となり、児童は指標を上回ったが、保護者は指標を下回った。 ①-2 75日実施。体操13%・水泳27%・陸上73%・駅伝73%、平均47%となり、指標を下回った。 ①-3 体力テストによる体力総合評価が、C以上の割合が83%となり、指標を上回った。 ----- ②-1 「早寝早起き」では、児童72%、保護者57%で、児童は指標を上回ったが、保護者は指標を下回った。「朝ごはん」については、児童82%、保護者93%となり、児童は指標を下回ったが、保護者は上回った。 ②-2 夏休み前の生活習慣チェックでは、早寝早起きの達成率は60%であった。朝ごはんの達成率は80%であった。 ----- ③-1 各学年とも、特別活動や体育科、家庭科、給食の時間等を通して、食育・健康に関する学習を1回以上行うことができた。 ③-2 一宮小学校のむし歯(う歯)保有児童の割合は27%で県平均(38.8%)を下回っていた。 </td> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;"> (評定) B (所見) 重点目標①については、高学年は、「運動をして自分の体力を向上させよう。」「積極的に体操・水泳・陸上等の大会の練習に参加しよう。」という意識が、個人によって差があり、二極化しているように感じられる。 一方、体力テストでは、全校の83%が体力合計C以上となり、指標を上回り、運動能力は高い水準を維持している。 今後は、体育の授業はもちろん、業間や昼休みに外遊びの運動を紹介するなど、外遊びの奨励によって体力の向上を図りたい。 重点目標②については、「早寝・早起き」の生活習慣の改善が感じられるように、家庭と連携した取組を継続していきたい。 重点目標③については、様々な教育活動において、ゲストティーチャーを招聘するなど、学年に応じた食育・健康に関する学習が進められた。 </td> </tr> <tr> <th>活動計画</th> <th>活動計画の実施状況</th> <td></td> </tr> <tr> <td> ①-1 1年間を通して体育の導入等で体力づくりを実施するなど、運動する機会を増やし、運動しようとする意欲や体力の向上を図る。 ①-2 外遊びや体操・水泳・陸上等の大会を奨励し、運動の習慣づけをはかる。 ①-3 運動の苦手な児童が、運動しやすい環境を整えるために、児童同士による話し合いの場を設けたり、授業の目標を児童の実態に合わせて示したりする。 ----- ②-1 保健だよりでの啓発を通して、「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣化と家庭との連携を図る。 ②-2 長期休業前に生活習慣をチェックさせ、早寝・早起き・朝ごはんの習慣化を図る。 ----- ③-1 食育や健康に関する学習の成果を家庭へ知らせる、学習内容が家庭でも生かせるように努め、学習内容を家庭に知らせ、連携を図る。 ③-2 むし歯の早期治療のための家庭への啓発活動を行う。 </td> <td> ①-1 授業の導入などで体力向上を図る活動を各学年で取り入れている。 ①-2 多くの児童が外遊びや体操・水泳・陸上等の大会へ向けて練習する機会を得ることができた。 ①-3 各学年で授業の目標を明確に示したり、児童の実態に合わせて活動の場を工夫したりすることで、振り返りの時間を確保することができた。 ----- ②-1 保健だよりで「朝ごはん」をテーマに取りあげ、朝ごはんを食べるメリットや、自分で用意することができるメニューなどを児童や保護者に発信した。 ②-2 長期休業前に生活習慣振り返りシートを配付し、課題把握や目標設定の場を設け、1週間の取組を実施した。シートは持ち帰りコメントをもらうなど、家庭との連携を図った。実施後は、目当ての達成率を各学年ごとに集計しほけんだよりを通して家庭へ周知した。 ----- ③-1 保健だよりや学年だよりを通して、食育や健康に関する学習に関する内容を家庭へ知らせることができた。 ③-2 むし歯の早期治療のため家庭へ保健だよりや歯の健康診断結果の通知を出した。むし歯予防のためのフッ素うがい、新型コロナ5類移行後も再開の見通しが立たず未実施。 </td> <td></td> </tr> </table>	評価指標	評価指標による達成度	総合評価	①-1 児童・保護者アンケート「しっかり運動している」の達成率85%以上 ①-2 高学年の体操・水泳・陸上等の大会や業間かけ足等の練習日数を80日以上行う。高学年の体操・水泳・陸上等の大会への練習参加率50%以上 ①-3 体力テストによる体力総合評価がC以上の割合が70%以上 ----- ②-1 児童・保護者・アンケートによる「早寝・早起き」の達成率70%以上 「朝ごはん」の達成率85%以上 ②-2 長期休業日前の生活習慣チェックでの目標達成率70%以上 ----- ③-1 食育・健康に関する学習を学期に1回は行う。 ③-2 むし歯(う歯)の者の割合が県平均以下(令和6年度38.8%)	①-1 児童90%、保護者79%となり、児童は指標を上回ったが、保護者は指標を下回った。 ①-2 75日実施。体操13%・水泳27%・陸上73%・駅伝73%、平均47%となり、指標を下回った。 ①-3 体力テストによる体力総合評価が、C以上の割合が83%となり、指標を上回った。 ----- ②-1 「早寝早起き」では、児童72%、保護者57%で、児童は指標を上回ったが、保護者は指標を下回った。「朝ごはん」については、児童82%、保護者93%となり、児童は指標を下回ったが、保護者は上回った。 ②-2 夏休み前の生活習慣チェックでは、早寝早起きの達成率は60%であった。朝ごはんの達成率は80%であった。 ----- ③-1 各学年とも、特別活動や体育科、家庭科、給食の時間等を通して、食育・健康に関する学習を1回以上行うことができた。 ③-2 一宮小学校のむし歯(う歯)保有児童の割合は27%で県平均(38.8%)を下回っていた。	(評定) B (所見) 重点目標①については、高学年は、「運動をして自分の体力を向上させよう。」「積極的に体操・水泳・陸上等の大会の練習に参加しよう。」という意識が、個人によって差があり、二極化しているように感じられる。 一方、体力テストでは、全校の83%が体力合計C以上となり、指標を上回り、運動能力は高い水準を維持している。 今後は、体育の授業はもちろん、業間や昼休みに外遊びの運動を紹介するなど、外遊びの奨励によって体力の向上を図りたい。 重点目標②については、「早寝・早起き」の生活習慣の改善が感じられるように、家庭と連携した取組を継続していきたい。 重点目標③については、様々な教育活動において、ゲストティーチャーを招聘するなど、学年に応じた食育・健康に関する学習が進められた。	活動計画	活動計画の実施状況		①-1 1年間を通して体育の導入等で体力づくりを実施するなど、運動する機会を増やし、運動しようとする意欲や体力の向上を図る。 ①-2 外遊びや体操・水泳・陸上等の大会を奨励し、運動の習慣づけをはかる。 ①-3 運動の苦手な児童が、運動しやすい環境を整えるために、児童同士による話し合いの場を設けたり、授業の目標を児童の実態に合わせて示したりする。 ----- ②-1 保健だよりでの啓発を通して、「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣化と家庭との連携を図る。 ②-2 長期休業前に生活習慣をチェックさせ、早寝・早起き・朝ごはんの習慣化を図る。 ----- ③-1 食育や健康に関する学習の成果を家庭へ知らせる、学習内容が家庭でも生かせるように努め、学習内容を家庭に知らせ、連携を図る。 ③-2 むし歯の早期治療のための家庭への啓発活動を行う。	①-1 授業の導入などで体力向上を図る活動を各学年で取り入れている。 ①-2 多くの児童が外遊びや体操・水泳・陸上等の大会へ向けて練習する機会を得ることができた。 ①-3 各学年で授業の目標を明確に示したり、児童の実態に合わせて活動の場を工夫したりすることで、振り返りの時間を確保することができた。 ----- ②-1 保健だよりで「朝ごはん」をテーマに取りあげ、朝ごはんを食べるメリットや、自分で用意することができるメニューなどを児童や保護者に発信した。 ②-2 長期休業前に生活習慣振り返りシートを配付し、課題把握や目標設定の場を設け、1週間の取組を実施した。シートは持ち帰りコメントをもらうなど、家庭との連携を図った。実施後は、目当ての達成率を各学年ごとに集計しほけんだよりを通して家庭へ周知した。 ----- ③-1 保健だよりや学年だよりを通して、食育や健康に関する学習に関する内容を家庭へ知らせることができた。 ③-2 むし歯の早期治療のため家庭へ保健だよりや歯の健康診断結果の通知を出した。むし歯予防のためのフッ素うがい、新型コロナ5類移行後も再開の見通しが立たず未実施。		休み時間の外遊びや、かけ足、高学年の体操・水泳・陸上等の大会への参加等、今後も継続してほしい。 ① 早寝早起き、朝ごはんの習慣については、本来家庭ですべき内容である。しかし現在の社会状況から考えると、必要な内容であろう。 学校と家庭での連携をさらに深めてほしい。 ② 基本的な生活習慣の育成について、今後も家庭と連携して力を入れて取り組んでほしい。 ③ 健やかな身体の育成に関しては、家庭との連携が必要不可欠であるため、今後も、家庭への啓発活動を中心に連携をお願いしたい。	① 全校児童で体力向上を図っていきけるような活動を、縦割り班活動の時間や昼休みに多く取り入れていく。 学年に関係なく、体力運動能力テストの数値向上や正しい体の動かし方につながるような運動を体育の導入で行う。 ② 規則正しい生活習慣を定着させるために、学校全体で連携して啓発活動を行う。 長期休業前に生活習慣チェックを行い、その結果や課題を周知することで、児童・保護者・教職員が共通の課題意識をもって取り組むことができるようにする。 ③ 全校統一した給食(食育)の指導方法や内容について共通理解を図る。 徳島市内では再開の目処が立っていないため、再開後は、フッ化物洗口を検討する必要がある。 むし歯保有児童の割合は県平均より低いですが、継続的な指導が必要であるため、全国歯磨き大会への参加や歯科衛生士による歯磨き教室の開催を再開する必要がある。 ほけんだより等を通じて保護者への啓発を行っていく。また、夏休み前の個人懇談時に再度通知し、歯科二次受診率を高くする必要がある。
		評価指標	評価指標による達成度	総合評価												
		①-1 児童・保護者アンケート「しっかり運動している」の達成率85%以上 ①-2 高学年の体操・水泳・陸上等の大会や業間かけ足等の練習日数を80日以上行う。高学年の体操・水泳・陸上等の大会への練習参加率50%以上 ①-3 体力テストによる体力総合評価がC以上の割合が70%以上 ----- ②-1 児童・保護者・アンケートによる「早寝・早起き」の達成率70%以上 「朝ごはん」の達成率85%以上 ②-2 長期休業日前の生活習慣チェックでの目標達成率70%以上 ----- ③-1 食育・健康に関する学習を学期に1回は行う。 ③-2 むし歯(う歯)の者の割合が県平均以下(令和6年度38.8%)	①-1 児童90%、保護者79%となり、児童は指標を上回ったが、保護者は指標を下回った。 ①-2 75日実施。体操13%・水泳27%・陸上73%・駅伝73%、平均47%となり、指標を下回った。 ①-3 体力テストによる体力総合評価が、C以上の割合が83%となり、指標を上回った。 ----- ②-1 「早寝早起き」では、児童72%、保護者57%で、児童は指標を上回ったが、保護者は指標を下回った。「朝ごはん」については、児童82%、保護者93%となり、児童は指標を下回ったが、保護者は上回った。 ②-2 夏休み前の生活習慣チェックでは、早寝早起きの達成率は60%であった。朝ごはんの達成率は80%であった。 ----- ③-1 各学年とも、特別活動や体育科、家庭科、給食の時間等を通して、食育・健康に関する学習を1回以上行うことができた。 ③-2 一宮小学校のむし歯(う歯)保有児童の割合は27%で県平均(38.8%)を下回っていた。	(評定) B (所見) 重点目標①については、高学年は、「運動をして自分の体力を向上させよう。」「積極的に体操・水泳・陸上等の大会の練習に参加しよう。」という意識が、個人によって差があり、二極化しているように感じられる。 一方、体力テストでは、全校の83%が体力合計C以上となり、指標を上回り、運動能力は高い水準を維持している。 今後は、体育の授業はもちろん、業間や昼休みに外遊びの運動を紹介するなど、外遊びの奨励によって体力の向上を図りたい。 重点目標②については、「早寝・早起き」の生活習慣の改善が感じられるように、家庭と連携した取組を継続していきたい。 重点目標③については、様々な教育活動において、ゲストティーチャーを招聘するなど、学年に応じた食育・健康に関する学習が進められた。												
活動計画	活動計画の実施状況															
①-1 1年間を通して体育の導入等で体力づくりを実施するなど、運動する機会を増やし、運動しようとする意欲や体力の向上を図る。 ①-2 外遊びや体操・水泳・陸上等の大会を奨励し、運動の習慣づけをはかる。 ①-3 運動の苦手な児童が、運動しやすい環境を整えるために、児童同士による話し合いの場を設けたり、授業の目標を児童の実態に合わせて示したりする。 ----- ②-1 保健だよりでの啓発を通して、「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣化と家庭との連携を図る。 ②-2 長期休業前に生活習慣をチェックさせ、早寝・早起き・朝ごはんの習慣化を図る。 ----- ③-1 食育や健康に関する学習の成果を家庭へ知らせる、学習内容が家庭でも生かせるように努め、学習内容を家庭に知らせ、連携を図る。 ③-2 むし歯の早期治療のための家庭への啓発活動を行う。	①-1 授業の導入などで体力向上を図る活動を各学年で取り入れている。 ①-2 多くの児童が外遊びや体操・水泳・陸上等の大会へ向けて練習する機会を得ることができた。 ①-3 各学年で授業の目標を明確に示したり、児童の実態に合わせて活動の場を工夫したりすることで、振り返りの時間を確保することができた。 ----- ②-1 保健だよりで「朝ごはん」をテーマに取りあげ、朝ごはんを食べるメリットや、自分で用意することができるメニューなどを児童や保護者に発信した。 ②-2 長期休業前に生活習慣振り返りシートを配付し、課題把握や目標設定の場を設け、1週間の取組を実施した。シートは持ち帰りコメントをもらうなど、家庭との連携を図った。実施後は、目当ての達成率を各学年ごとに集計しほけんだよりを通して家庭へ周知した。 ----- ③-1 保健だよりや学年だよりを通して、食育や健康に関する学習に関する内容を家庭へ知らせることができた。 ③-2 むし歯の早期治療のため家庭へ保健だよりや歯の健康診断結果の通知を出した。むし歯予防のためのフッ素うがい、新型コロナ5類移行後も再開の見通しが立たず未実施。															

「総合評価」における「評定」の基準 A: 十分達成できた、 B: 概ね達成できた、 C: 達成できなかった